
リリカルでマジカルな世界に砂漠妖怪

黒ぷりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルでマジカルな世界に砂漠妖怪

【Nコード】

N0844BA

【作者名】

黒ぷりん

【あらすじ】

リリカルなのはの世界に転生しました。

しかし転生した場所は物語に関わりの無い砂漠が広がる世界でした。

プロローグ

人生とは何が起こるか解らない。

例えば学校に遅刻しそうになりパンをくわえて走っていたら美少女やイケメンにぶつかり言い争いになりそいつは実は転校生でしたとか、そんなキャツキャウフフなコテコテの恋愛ゲームのテンプレ人生になるかもしれない。

またはいきなり異世界に放り込まれて、落ちた先に美少女またはイケメンが居てそいつと共に魔王を倒す旅に出るついでにキャツキャウフフするという人生も……

しかしながらそれには落とし穴があり、イケメンや美少女でなければ物語が始まらないという罠も存在しているのだ。

ちなみに俺はどこにでも居そうな普通の顔立ちでやや陰気なイメージが付きまとっている。

まあ転生という奥の手もあるが、俺みたいな人種は残念な事にヒロインとかとキャツキャウフフできない

せいぜいモブキャラが限界だな。

目立つと死ぬ。

……先ほどから何が言いたいのかというと、どうやら俺は死んだようだ。
死んだ事によるショックは無かったが、突然の事でテンパっている
のでとりあえず現実逃避しているのである。

「そろそろ良いか？」

あ、どうぞ。

現実逃避から戻ると目の前に少年が居てニヤニヤしながら「丁寧に
も死因を教えてくれた。

どうやらこのガキンチョが神様のようだ。

ちなみに死因は、ゴキブリに驚いての心臓マヒを起こしたと、我な
がら情けない死に方である。
しかしネタにはなるな。

天国とかで、あー！ゴキブリに驚いて死んだ人だーって美少女天使
に言われたり……止めよう、なんか涙が出てきた。

「暇つぶしで殺した
転生させてやるから俺を楽しませろ」

よくある二次創作みたいに謝らないんだな。
まあ、よく考えてみると当たり前の事だ、何千何億という生命体の
1個体でしかない俺を気にかける事は無い。

ん……？

つーか、何言ったこの神様？

「えーと、つまり貴方のミスでは無く暇つぶしで俺は殺されたと？」

「物分かりが悪いな、さっき言っただろ？
さっさと転生しろ」

……なんだこの神様、俺をゲームの駒としか考えて無いのか？

ていうか特典とか無いの？

「ああ、ちなみに特典は死ぬ前に見ていたアニメや漫画の能力や装
備だ

サービスで魔力もくれてやる」

死ぬ前つーと……砂ぼうずの漫画を読みながらガンソードのDV
D見ていたっけ。

「―か思考読めるんだ流石神様。

「お前……器用だな」

「いや、アニメは垂れ流しですよ」

「まあ良いか、それで転生しろ
んで楽しませろ

物語が終わったら好きにして良いぞ」

説明は終わりだと言い神が親指をビシッと下に向けると足元が無くなり俺は自由落下を始める。

驚きのあまり声を出せずに落ちる俺

転生する世界とか場所とか他の転生者とか色々聞きたい事があった
のだが残念ながら視界が暗転して意識が朦朧となった。

あ……容姿どつちですか？

できれば童帝か鬼いさんを希望したいのですが……

「OK判った、砂ぼうずメインでいくわ」

神様なんて居なかった。

プロローグ（後書き）

ついやってしまった後悔はしていない

転生したからといって主人公と絡むとか夢物語

転生という体験は初めてでどうなる事かと心配だったが、特に障害も無く五体満足で転生できた。

とはいえ赤ん坊の頃の記憶はほとんど無く、気が付いたらいつの間にやら転生していたというのが正しい表現かもしれない。

一つ残念だった事は母親のふくよかな胸囲に吸い尽いたりさわったりする記憶が無い事だな。

別に俺は鬼畜や畜生では無いので実の母親に欲情はしない。

いや、肉親だとしても巨大な山脈があれば一回くらいは拝むのが自然の摂理というものだ。

うん、俺は悪くないな、悪いのは豊かな果実をこさえた母親とこんな思考をするようになった俺だ。

……悪かった、どうやら俺が間違っていたようだ今のは忘れてくれ。

まあダラダラとここまで思い起こしたのだが、問題はどのような世界に転生したのが重要な事だったな。

俺が転生した世界は魔法と科学が融合した世界、リリカルでマジカルなアレの生活だ。

原作知識は殆ど無い……というか記憶が欠落しているようで前世の記憶がほとんど無い。

デバイス、管理局、魔法生物などのキーワードで何となくだがリリカルなのは世界だなと理解できた。

……やっぱ前世はそっち方面の人間だったのか？

【……来たぞ】

おっと、獲物が来たようだ。

話は中断するが、現在狩りの最中だったりする。

幸運な事にリンカーコアがあつたので念話ができるし魔法も使える。
というか使えないと生きていけない世界だったりする。

ちなみに俺のポジションは、砂に潜って待ち伏せからの奇襲がメイ
ン。

獲物が来たら、魔力弾をぶち込む簡単なお仕事です。

……嘘だ、実は初めて正面担当になりました。

そんな無駄な思考を巡らせていると俺が潜っている所まで影が差し
た。

スコープ出して確認すると巨大なトカゲの化け物がゆっくりと近付
いてくるのが見える。

獲物が一步を踏み出すたびに地響きで俺の身体をビリビリと撫でる。
いや、俺が震えているのか？

指がじんわりと痺れて鼓動が早くなってくる。

ヤバイな、俺ブルってる。

【おい、しくじるなよ？

久しぶりの獲物だ、そろそろ肉が食いたいんだよ】

俺が返事をしない事を不振に思ったのか仲間の一人が喋りかけてきた。

というかイライラしていた。

失敗したら俺が食われる物理的な意味で。

【りよっ了解】

俺は怖気付いた心に喝を入れ深呼吸、そして獲物の位置を確認する。

……距離10メートルって所か、そろそろ仕掛けた方が良いな。

【三秒後に仕掛ける】

【OK、へますんじゃねーぞ】

わかってるっつーの！俺だってハラペコだ。

【……3】

先ずは背中のウインチに魔力を込め

【……2】

愛用しているデバイスのグリップを握りしめ

【……1】

身体に力を込める

【……0!-!】

俺は砂から勢い良く飛び出した。

■
■
■
■
■
■
■
■

「砂漠の神と今日の獲物に感謝を込め、乾杯！」

『乾杯!』

リーダーの声と共にガラスがぶつかり合う音が響き、宴が始まる。

結論から言うと狩りは成功して、俺達は飯にありつけた。

俺が放った魔力弾は獲物の足に命中し獲物が転び、仲間達が魔力弾の雨を振らせて終了。

ジュージューと肉汁滴る良い焼き肉になり俺の腹を満たす。

「よぉ〜クー坊、お手柄だったなあ!」

髭面の熊ようにデカイ酔っ払いが絡んできた。

「ちょ！重い！」

ゲンさんそのクー坊つての止めてくれよゲンさん！」

この酔っ払いの髭面はゲンさんと言って、俺の師匠にあたる人物だ。俺が活躍したのが嬉しいのか豊かな髭をこすりつけてくる。

……チクチクしてくすぐつたい酒臭い重い、やたらとスキンシップが激しいので実はこの人そっち方面の人なのではと思ってしまう。まあただ単に息子のように接してくれているだけだと思うが……いや、思いたい。

「ガッハッハ！」

俺は嬉しいぞー！！」

別の意味でくすぐつたくなってきた。

つかクー坊はやめてくれ恥ずかしいたぶん止めないと思うけど。

「ゲンさんが教えてくれたからだよ」

「嬉しい事言ってくれるじゃねーか！」

よし、ここは俺の感動の舞を披露せねば……！！」

ゲンさんは更に機嫌が良くなったのかそのままのテンションで踊りだした。

それに釣られて他の酔っ払いも踊りだす。

「なにこのカオス……」

原因は俺なんだが、とりあえず酔っ払いは放置して、冒頭の話の続きでもするか……

……俺が転生したのは砂漠が広がる世界だった。

この世界では水やら植物が無く、代わりに魔法生物と言われる生き物が生息していて、水や食料はその魔法生物を狩る事で獲ることができる。

ちなみに、その魔法生物を狩る事を生業としたのが、俺たち狩猟民族だ。

で、肝心のデバイスだが、驚いた事に独自改良されたデバイスだった。

待機形態は大きなリュックサックで、寝袋やら生活必需品が入っている。

バリアジャケットを展開するとまんま砂ぼっずになる。

砂ぼっずがわからない？ゲゲれ。

とりあえず簡単に装備を説明すると各種センサーやスコープが内蔵された金魚鉢みたいなヘルメットに日傘を被せて、野戦服を着込み背中にはワイヤー式のロケットウインチを背負い、魔力弾やダメージを数回発防げるマントを羽織っている。

……このマント某海賊ガンダムのABCマントじゃね？

ん？ABCマントって何だ？前世の記憶か？

なんか強化フラグとかあるのかね？

ちなみに他の仲間も同様の装備で、並んで歩くと実にシニールである。

手持ち武器はそれぞれ違っていて、俺の場合はショットガンだった。おそらく原作意識だと思う。

機能については追々だな。

目下の問題は俺が何時の時期に転生したのか、そして半裸で突進してくるゲンさんにどう接したら良いのかという事だ。

まあ前者は原作自体もほとんど覚えていないし別次元なので、介入は無理じゃね的な流れになっているがな。

後者はもう泣きたくなってくる。

酔った勢いで掘られるのでは無いのかとガチで思ってしまう。

っーかこっち来んな！

「うおおおおクー坊ううううう！！！！！」

「ぎゃあああああ！来るなあああああ！！！」

ともかく比較的平和な世界に転生できて良かったよ。
今は地味にピンチだけどね、主に尻が。

転生したからといって主人公と絡むとか夢物語（後書き）

筆者の知識もほとんど無いので、色々調べていますがなかなか上手く書けません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0844ba/>

リリカルでマジカルな世界に砂漠妖怪

2012年1月1日23時48分発行